

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	アスク東川口保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	加藤 美磨里	定員(利用人数)：	90 (91) 名
所在地：	〒 333-0811 埼玉県川口市戸塚4-21-1	TEL	048-298-0083

③評価実施期間

平成28年8月30日(契約日)～平成29年3月31日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○子どもたちがおいしく楽しく給食を食べられるよう食育活動の実践と展開に工夫をしている  
 年間の食育計画表は園の栄養士により作成されている。今年度は給食のサンプルの展示の他に食材の展示も行っている。展示は玄関の入り口に置いてあり、降園時に親子で食材にふれたり匂いを嗅いだりできるようにしてある。本日の給食のレシピと合わせて、給食室日誌と称して栄養士からのコメントも掲示をしている。これまでは食材を納入してくれる生産者の顔写真を貼って紹介していたが、今年度は来園してもらい、持参してくれた色々な種類の芋の話などを直に聞き、生産者の思いにふれる機会となった。また、近所に畑を借りてジャガイモ掘りや、大根抜きなどが全園児で体験できた。畑づくりを通して栽培方法を教えてもらったり、近隣の方とのつながりも深まっている。栽培物を使っても餅づくりのクッキング保育も実施しており、実施後は園のブログに載せてタイムリーに保護者に発信した。また、保護者を対象に誕生会時に保育参加を実施して、その際には子どもたちと一緒に給食を食べてもらい、試食会と園給食への理解の機会とした。保護者の意見についても食育の実践に関しては評価が高いところである。

○地域の子育て支援施設としての役割が十分に発揮され、地域の拠点として機能している  
 保育所の特性を生かし子育て支援の様々なメニューを用意している。在園している子育て家庭のみならず、地域の子育て家庭の育児を支援している。園に併設している支援センターには専任で保育士を配置しており、親子遊びを一緒に行ったり育児や発達の相談に乗ったりしている。利用者は5カ月毎に週1回ずつ利用できる8組の固定メンバーと、リズム体操、調理体験、絵本の読み聞かせ、手作りおもちゃの制作などを実施する回がある。それぞれの回毎に利用者の募集をしており、保護者からの人気も高く、常時一杯の利用状況にある。また、夏祭りや運動会、園庭開放などにも参加をすることができ、利用者は保育園を身近に感じることができるとなっている。在園児の保護者については保育参加を積極的に呼びかけて子どもの理解につなげたり、今年度は園の主治医である歯科医の講演会を行い、「大切な歯」の話をしてもらった。講演会には父親や両親での参加もあり、「改めて歯磨きが大切だということを実感した」と好評であった。

○経営層のリーダーシップと職員間の連携を活かし、保育への意識や考え方を共有した取り組みが進められ、保護者からの信頼度・高い満足度を維持している  
 園経営層のリーダーシップや指導力などが活かされ、保育への意識共有・保育活動での連携・コミュニケーションが図られており、取り組む課題や問題点などが明確になり、職員間での解決・改善、さらなる保育の質向上に向けた取り組み姿勢がしっかりと形作られている。ワークショップ手法などを用いた意識の集約や合議が進められ、取り組みへの不満や不安などをできるだけ払拭して、職員間での理解と協調を基本とした保育活動への展開が図られている。職員間での情報共有も的確に行われ、協力体制の良さが園運営全体に浸透しており、保護者との信頼関係・園への高い満足度が維持されている。また、非常勤職員を含めた意識共有や保育への考え方の共通認識も高く、各自の意見や保育への思いなども考慮した保育活動の展開が図られている。

◇特にコメントを要する点

○保育の質向上に向け、課題を明確にして取り組みを進めており、子どもたちだけでなく職員の楽しさにつながる取り組みにも活かされたい

「保育の質を高めるために」を目標に、保育室の使い方や環境設定の工夫、子どもの関心をどのように引き出すかの話し合いを進めており、おもちゃや絵本などの提供方法に配慮した取り組みが進められている。子どもの主体的な遊びとは、継続的な遊びへの工夫やコーナー遊びの充実に向けた保育環境の設定などにも課題が残されていると認識しており、今後の取り組みに期待が持てる。これらの取り組みを中期計画の中で位置づけ、人数に適した玩具と量など明確な目標と達成指標を設定するなど、子どもたちの面白い・嬉しいだけでなく、職員の働きやすさ・楽しさにもつながる活動に活かされたい。

○若い職員へのサポートや戸外活動、感染症への配慮を進め、無理のない範囲で改善を図られたい職員間での情報共有などに関する若干の指摘も利用者調査から窺え、若い職員への支援や指導などへの意見も見られる。また、戸外活動での危険性の認識やさらなる配慮、感染症対策へ職員間での意識向上などに課題があるとの考えもある。取り組みのポイントを整理し、職員間の共通認識を高め、無理のない範囲で改善・向上に向けた対応を図られたい。子どもたちの楽しいや嬉しいが重要であり、職員に負担のないことからさらなる取り組みを進め、子どもを包み込む温かさや優しさなどの共有につながる活動を期待したい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今年度も第三者評価を受け、職員一人ひとりが日々の保育について再確認でき、また、見直すことができました。そして子どもたちに向かう保育の質について全職員が身を引き締めることができる良い機会となりました。

利用者である保護者のご意見も参考にし、取り組むべき課題を明確にしていきたいと思えます。まずは、職員の子どもへの保育に差が生じないよう若手の育成に力を入れていき、子どもたちが伸び伸び自分らしく遊びができるのはもちろん、職員自身の個性を活かした保育ができるよう努めていきます。また、園内全体の保育環境整備に重点を置き、きれいで清潔であたたかみのある園内、ほっとできる安心感を作りたいと思えます。

第三者評価にご協力いただいた評価機関の皆様、お忙しい中アンケートにご協力いただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

引き続き、子どもたちへ精一杯の保育を行ってまいりたいと思えます。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり